

【作法編の目次】

①私たちのお寺	7
②お念珠	8
③せいてん・おつとめ(勤行)	9
④合掌・称名・礼拝	10
⑤お焼香	11
⑥お参りのマナー	12
⑦帰敬式・法名・式章	13
⑧仏旗・下がり藤	14
⑨ご本堂	15
⑩お内陣	16・17
⑪お仏壇	18
⑫お莊嚴・お給仕	19

① 私たちのお寺

私たちの宗派を「浄土真宗本願寺派」といいます。ご本山は「本願寺」で、全国に約10,000、海外に約150のお寺があります。皆さんと同じようにお寺にお参りしているお友だちが、日本全国、さらにアメリカやブラジル、ヨーロッパ、アジアなど世界各国にもたくさんいて、浄土真宗のみ教えを聞いています。



私たちのお寺はどのようにしてできたの？

皆さんのご先祖が、みんないっしょにみ教えを聞くための道場をつくったんだ。その道場にやがてご本山からお寺の名前をつけてもらって、お寺になったんだよ。そして、代々のご住職・坊守さまとともに、自分たちのお寺とご本山を大切にまもりながら、私たちにみ教えを伝えてくださったんだ。

そんな私たちのお寺でみ教えを聞いて、浄土真宗の正しい作法をみ身につけていこうね。



【わたしの阿弥陀さま目次】

- | | |
|----------------|----|
| ①阿弥陀さまありがとう | 23 |
| ②聞こえる阿弥陀さま | 25 |
| ③お立ち姿の阿弥陀さま | 27 |
| ④蓮の上の阿弥陀さま | 29 |
| ⑤背中を見せない阿弥陀さま | 31 |
| ⑥阿弥陀さまのサイン | 33 |
| ⑦阿弥陀さまの願い その1 | 35 |
| ⑧阿弥陀さまの願い その2 | 37 |
| ⑨阿弥陀さまのお国(お浄土) | 39 |
| ⑩阿弥陀さまの子ども | 41 |
| ⑪阿弥陀さまのお浄土から | 43 |
| ⑫阿弥陀さまの願いに生きる | 45 |

① 阿弥陀さまありがとう



お寺や、お家の仏壇のまん中には阿弥陀如来
という仏さまをご安置してあるけど、ぼくのお家の仏
壇の仏さまは、お寺の仏さまとはちがうよ。どうして？

きみのお家の仏さまは、きっと絵で描かれている仏さ
まだろう？あれは「ご絵像」といってね、お寺の仏さま
のように、木で彫られた「お木像」の仏さまを、絵で表
したものなんだよ。

ほかにも「お名号」といって「南無阿弥陀仏」と書い
た掛け軸をおかけしているお家もあるよ。

仏さまには、それぞれ「お木像」「ご絵像」「お名号」
と形がちがうものがあるんだよ。

でも、このどれもみんな「阿弥陀さま」なんだ。

お木像



ご絵像



お名号



【おしゃがさま もくじ】

おしゃがさま編

①おたんじょう	49
②なやみ	51
③四つの門（四門出遊）その1	53
④四つの門（四門出遊）その2	55
⑤出家の決意	57
⑥きびしい修行	59
⑦スジャーターのおそなえ	61
⑧さとりを開く（成道）	63
⑨はじめての説法（初転法輪）	65
⑩教えを伝える旅（伝道）	67
⑪王舍城の悲劇	69
⑫さいごの旅（涅槃）	71

① おたんじょう

インドの北に「ヒマラヤ」という、高い山があります。
その山のふもとに、カピラという小さな国がありました。

カピラの王さまスッドーダナさまと、おきさきのマーヤーさまには、一つの願いがありました。それは子どもをさずかりたいことでした。

ある夜のことです。マーヤーさまは不思議なゆめを見ました。明るい光に包まれた白い象がマーヤーさまの体の中にスープと入ってしまうゆめです。

それからしばらくすると、マーヤーさまのおなかに赤ちゃんができていることがわかりました。
王さまも、國中の人も大喜びです。

あたり一面にきれいな花がさきほころぶ4月。マーヤーさまはお産のためにマーヤーさまの両親の家に帰っていました。ルンビニーという花園で休んでいるとき、急にめまいがしたので、近くの木によりかかりました。

そのとき、かわいい赤ちゃんが生まれたのです。
「王子さまのおたんじょうだ！」とみんなが喜んでいると、生まれたばかりの王子さまは七歩あるき、小さな手で天と地をゆびさして、

おしゃがさま編

【しちこうそうさま 目次】

① 恵信尼さま	113
② 蓮如さま その1	116
③ 蓮如さま その2	119
④ 七高僧さま	122
⑤ 龍樹菩薩さま【インド】	125
⑥ 天親菩薩さま【インド】	127
⑦ 疊鸞大師さま【中国】	129
⑧ 道綽禪師さま【中国】	131
⑨ 善導大師さま【中国】	133
⑩ 源信和尚さま【日本】	135
⑪ 源空(法然)聖人さま【日本】	137
⑫ 聖徳太子さま	139

① 恵信尼さま



えしんに
親鸞さまがご結婚されていた恵信尼さまって、どんな女性だったの?

えしんに
恵信尼さまは、越後(今の新潟県)の豪族・三善為則
むすめ
の娘さんだといい伝えがあるよ。

えしんに
親鸞さまが35歳で流罪にあわ

れ、越後でおすごしになっていた
とき、結婚されたといわれている
んだ。

えしんに
親鸞さまより九つ年下の方で、
ひび
日々のことを日記につけておられ
たんだ。当時の女性にしては高い
きょうよう
教養の持ち主だったんだよ。



えしんにこうこえいどう ほんがんじくふべついんぞう
●恵信尼公御影像(本願寺国府別院蔵)



えしんに
その日記は残っているの?

えしんに
まだ発見はされていないんだ。親鸞さまがご往生にな
ったあと、恵信尼さまは娘の覚信尼さまにお手紙を書か
れ、親鸞さまのことをくわしく伝えられているんだけど、
そのなかに「日記を見てしらべました」と書いてあるん
だよ。

じゅうにらいへん
【十二禮編】

もくじ
目次】

①まことの仏さまのまことの世界	ほとけ せかい	143
②阿弥陀さまの落ち着いたお姿	あみだ おすがた	145
③阿弥陀さまのやさしいお顔とお声	あみだ かお こゑ	147
④阿弥陀さまと観音さま	あみだ かんのん	149
⑤阿弥陀さまの限りない大きさ	あみだ かぎ おお	151
⑥ほめたたえられる阿弥陀さま	あみだ	153
⑦お浄土にまします阿弥陀さま	じょうど あみだ	155
⑧阿弥陀さまを慕う菩薩たち	あみだ したば さつ	157
⑨阿弥陀さまのご説法 無常の教え	あみだ せっぽう むじょう おし	159
⑩さまたげるものがいるお浄土	じょうど	161
⑪お浄土は仏さまになる世界	じょうど ほとけ せかい	163
⑫みんないつしょに		165

ほとけ
①まことの仏さまのまことの世界

てんにん あお
天人ともに 仰ぎみる
あみだ とうと
阿弥陀ほとけの 尊しや
やす くに
安けき国に かのほとけ
あまたの子らを ひき
あまたの子らを 率います

わたし じんせい もくひょう
私たちの人生の目標ってなんでしょう。

ひと いけん おも
人によっていろいろな意見があると思います。

*お金持ちになる（お金を貯めることが人生の目標）

*社長とか総理大臣といったようなえらい役職につく（地位につくことが人生の目標）

*みんなから立派な人だとほめられる（名誉を手に入れることが人生の目標）

だいじ わたし
これらは大事なことかもしれません。でも、私のいのち
そのものをかける值打ちがあるものなのでしょうか。

もし、100億円のお金、総理大臣という地位、金メダル
という名誉を目の前に積まれて、「これをあげますから、代
わりにあなたのいのちをください」と言わされたら、あなた
は自分のいのちをわたすことができますか。「そんなことは
ぜったい絶対にできない」と思うでしょう。

なぜでしょうか。それは、人間の欲望で考えだした、

1. 真宗宗歌	169
2. 敬礼文・三帰依	170
3. さんだんのうた	171
4. 念仏	172
5. 恩徳讃(新)	173
6. 仏の子供	174
7. 朝の歌	175
8. 衆会	176
9. いまささぐ	177
10. 明日に向かって	178
11. ありがとうおしゃかさま	180
12. 宗祖降誕会	181
13. 報恩講の歌	182
14. 旅ゆくしんらん	183
15. 光りのなかに	184
16. 生きる	185
17. ひかりあふれて	186
18. きゅきゅつきゅ音頭	188
19. 夕の歌	190
20. 恩徳讃(旧)	191
21. さよなら	192

しんしゅうしゅうか
真宗宗歌

作詞 土呂 基
作曲 島崎赤太郎

d=60

1. ふ か き み の り あ い ま つ る
2. と わ み や の よ と の み ち れ な
3. う の の お う と う 一 み み み
の の お う と う 一 み み み
の の お う と う 一 み み み
の の お う と う 一 み み み
の の お う と う 一 み み み

た す ら み ち な を き 一 ひ 一 き つ ま よ
た く が す ら の み か な は に と つ な え
た く が す ら の み か な は に と つ な え
た く が す ら の み か な は に と つ な え
た く が す ら の み か な は に と つ な え

こ の と の み み 一 ね い た そ 一 だ 一 か 一
く な の な り み わ い に い そ そ も 一 し 一 ま 一
く な の な り み み 一 ね い た そ 一 だ 一 か 一
く な の な り み み 一 ね い た そ 一 だ 一 か 一
く な の な り み み 一 ね い た そ 一 だ 一 か 一

真宗各派協和会発表

深きみのりにあいまつる
身のさち何にたとうべき
ひたすら道を聞き開き
まことの御旨いただかん

身の劫の闇より救われし
身のさち何にくらぶべき
六字の御名を称えつ
世のなりわいにいそしまん

海の内外のへだてなく
みおやの徳のとうとさを
わがはらからにつたえつ
淨土の旅を共にせん

しんしゅうしゅうか
真宗宗歌